

04 市民力

「今、地域の力が試されている。」

■25の行政区の集合体

片岡地区で行われるイベントや行事は、全てボランティアの力で行われている。コミュニティ文化祭にも、なにかと忙しい時期にみんなが集まってくれた。お互いに協力しあい、力を合わせて頑張ってくれるからこそ、とてもよいイベントができるのだと思う。

その原動力とはそれぞれの家庭であり家族だ。夫婦の仲や親子の関係など、家族がうまくいっていればこそ、地域のことに主体的に関われる。片岡の人たちは、「地域のためになんとかしなくてはいけない」という思いが強い人が多い。多くの皆さんが家族単位で参加してくれたり、快く

家族がイベントに関われるように送り出してきている。

参加してくれる人にはもちろん、留守を守ってくれている家族の方々にも感謝したい。この地区の人口は年々増えている。片岡地区は、とても広大な地域であり、25の行政区が存在する。その中には、農家を中心とした農村地域や、市外から多くの人が移住してきた新興住宅地など、それぞれが多様な特徴を持っている。その多くの行政区同士が一つになって活動をしているのが私たち「片岡地区コミュニティ推進協議会」である。

トップに聞くこれからのコミュニティ

三好 良重さん

広大な片岡地区には、心温かな人々と発展していく街並みや農村風景が共存している。片岡地区コミュニティ推進協議会の三好会長に聞いた。

■故郷への誇り

片岡地区のコミュニティ活動の歴史は深い。私自身も長くコミュニティ活動に関わっているが、先輩たちは快く受け入れてくれた。勤めていたのが宇都宮だったこともあり、職場の同僚から「それだけ地域の活動が多くあつてうらやましい」と言われていた。いろいろと大変なこともあったが、今まで諸先輩方が培われてきたコミュニティ活動の歴史に感謝したものである。年を重ねてきて、コミュニティの役員になり、ますます深く関わるようになってきた。さまざまな活動を重ねていく中で、今でも先輩方の功績に助けられることが少なくない。人間関係の希薄さが問題と

なっている中で、片岡の地域は、人と人が深く関わり合う、日本社会における懐かしい習慣や風習がまだまだ残っていると感じる。この人間関係の価値観は他の地域に誇れるものであり、今そんな素晴らしい地域に暮らしていることを心から誇りに思っている。

■問題に立ち向かう

少子高齢化・核家族化とともに、人々の価値観の多様化が進む中で、今、「地域コミュニティ」の必要性が叫ばれている。地域コミュニティと一口に言っても全国的に見て、千差万別である。それぞれ設立されたねらいや背景などコミュニティが必要とされた理由は

■これからますます...

地域コミュニティ活動で地域が抱える全ての課題に立ち向かえるわけではない。どこかに焦点を当て対応を考えていかなければいけない。

生活を守る、農業を守る、子どもたちを守る、情報を発信するなど、コミュニティ活動は多岐に渡っている。これらをうまくマネジメントするためには、市や関係機関・各種団体、専門家などを交え組織的に取り組んでいく必要があると感じている。幸いにもこの地区には、「地域のためになんとかしなくてはいけない」「逃げてはいけない」という思いをもった方が多い。

きたい。できるひとが、できることを、その無理のない姿勢が長く地域活動を進めていく上でのポイントであると思っている。私たちの使命は、未来への基盤をつくり、次の世代へと引き継いでいくこと。それが、この片岡の地域や人を守ることにつながると信じている。



Miyoshi Yoshishige

Profile

昭和19年生まれ。お子さんが幼少のころから、片岡のコミュニティ活動に参加し約25年に渡り関わっている。平成17年から会長を務め、現在8年目。そのほか、市の地域コミュニティ推進委員、男女共同参画地域推進委員などを務めている。矢板市片岡在住。69歳。



片岡地区高齢者声かけふれ「愛」隊」発足式

これからの役員の方々と地域の方々と力を合わせ、お互いの持ち味を發揮し合いながら、共に未来を切り開いていく地域づくりを進めてい

